

農 場 訪 問

～ 肉用牛 ～ (有) 亀岡牛人見畜産 (亀岡市)

今回、地域ブランド牛の亀岡牛を親子2代で生産する有限会社亀岡牛人見畜産を訪ねました。

亀岡牛は、二代目代表の人見政章さんとその仲間たちで昭和61年に立ち上げたブランドで、現在も二代目は、亀岡牛生産株式会社の代表として亀岡牛の振興をリードされています。

三代目武瑠さんは、京都府立農業大学校を卒業後、鹿児島県や宮崎県の大規模農場での2年間の研修を経て、平成21年から経営に参画され、武瑠代表を中心に肥育牛300頭を飼養されています。

人見畜産は、名だたるブランド牛が競い合う近畿東海北陸連合肉牛共進会で農林水産大臣賞を受賞するなど数々の受賞歴を持っておられます。

枝肉が大きく、脂肪の質が良い牛肉生産を支えるため、週3回、武瑠代表は食肉センターで自ら枝肉の肉質や内蔵の状態を確かめ、その情報を元に亀岡牛統一飼料をベースにした独自のブレン

ド飼料を給与するとともに、牛舎に音楽を流し密飼いをさけ、牛がゆったりと過ごせる環境づくりをされています。武瑠代表は、「これからも病気が少なく、長く続けられる経営を目指したい」と強く語られ、肉質に定評のある亀岡牛をこれからも仲間と一緒に牽引していただきたいと思います。(研究・支援部 村上)



人見武瑠代表

～ 乳用牛 ～ 浦入富雄さん (綾部市)

酪農家に生まれた浦入富雄さんは、大学で畜産学を学んだ後、平成7年に地元にもどり、現在、つなぎ式牛舎で、約80頭(育成牛を含む)を飼養されています。

浦入さんに「酪農経営におけるこだわり」について尋ねたところ、第1は「少しでも自分で作った飼料を給与したい」ということで、イタリアンライグラスを作付けされており、現在の規模3ヘクタールからの面積拡大も計画されています。

次は「日々の牛の観察」で、繁殖成績も良く、牛群改良も進んだ結果、平均乳量は毎年アップしています。最後は「地域に貢献すること」で、長年、集落の約30ヘクタールの水田等に良質堆肥を供給するとともに、耕畜連携で取組む稲ホークロップサイレージ(WCS)の生産にも携わり、持続的循環型農業を実践されています。

まだまだ活躍中の浦入さんですが、自分の経営

を大切に思い、将来は誰かに継承したいとの思いも語られており当センターが令和2年度から開始する「畜産人材育成研修制度」に期待を寄せられています。(業務部 岩間)



浦入富雄さん